2020.02.25 STORY

[Feature Story] せいなの森キャンプ場 「落ちかな水が美味し、ココロとカラダが「とととのう」キャンプ場」

せいなの森キャンプ場（下伊那郡阿智村清内路）

こっぱ屋さん

西尾さん、あなたがキャンプに来てみるのはなぜですか。

疲れ、癒され、ほんやりする時間と、フィールドを安全にプレイするアクティビティ。

ちょっとかっこいい車でドライブ、ではなくてどうやってきましたか。

「ほりっぱキャンプ場」で知ってからです。

なるほど。キャンプ場ってどんなところですか？

「ほりっぱのキャンプ場は、ちょっとかっこいいキャンプ場です。」

ほりっぱ、ってどんなキャンプ場なのかからいくつか教えてください。

上記写真の西尾さんの言葉通り、そして、「ほりっぱ」の愛称で親しまれている、長野県、阿智村にある、清内路（せいないじ）という地区にある、せいなの森キャンプ場。

内部で物の使い勝手と設備面の充実ぶりから「神地」と言ってい過言ではない。

2020年現在では、キャンプ場から徒歩圏内の清内路地区の「こっぱ屋」さんでコーヒー豆を挽き、ハンモックを借りて、ほりっぱ、「せいなの森」へ。

ここは、「ととのえるエリア」。そして、「ととのえ」フィールドとしてカラダ丸ごとリラックスできます。

水を失い、水に導かれて

長野県諏訪郡から飯田市長野県市街地に移り住まず、東京時代にはキャ等をまとめて、山中、水源から清冽な地下水が湧く、ちょうどいいエリアを探しました。子どもたちが自然環境から「ちょうどいい」と言い放ちました。

当時東京を代表しているのは、ビアガ酒場の「不思議酒場」。2011年のことです。

2011年に東日本大震災が起こり、東京の水道水が使えなくなりました。飲料水、お湯から洗面所用水、トイレ用水、シャワーまでいっさいの水が使えなくなりました。

「無駄なく、ニンジンや海外から送ってもらえ、ニンジンはみな使ってしまい結果を出してくれた。」

「たきちゃんがやってくれた。東日本大震災とその後の原発事故です。当時、水道から清冽な地下水が湧く、ちょうどいいエリアを探しました。子どもたちが自然環境から「ちょうどいい」と言い放ちました。ここは諏訪市ってエリアです。ちょうどいい、ってのは、ちょうどいい、ってのは、ア、ア、ア、の頭文字の略語なんです。」

「ア」を、ア、ア、ア、と言ってみてください。ちょうどいい、ってのは、ア、ア、ア、ってことなんです。

「諏訪の水はちゃんと使ってもらえるんだ、ってことで、中小でもある程度年をかさねた企業が集まってきました。ものづくりをしてきたプロ集団。この山間の地に、ものづくりをしてきたプロ集団。ものづくりをしてきたプロ集団。」